

登別市の財政状況

問い合わせ 財政グループ（☎851331）

市は、市民の皆さんに市の財政状況に対する理解を深めていただくため、予算や決算のほか、予算の執行状況などの財政状況に関する公表を年2回行っています。今号では、令和7年3月31日現在の一般会計の収入と支出の状況、特別会計の状況、市債（借金）の残高、財産の状況、一時借入金の状況をお知らせします。

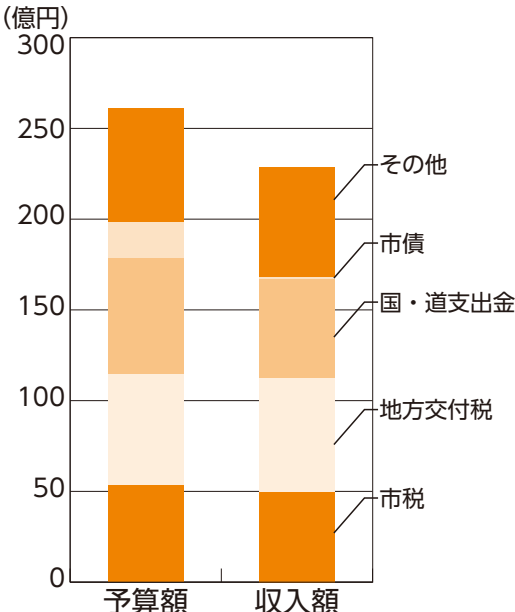
一般会計予算の執行状況

一般会計は、市税や国からの地方交付税などの収入により、福祉や教育の充実など、さまざまな事業を行っています。

予算額 261億3,019万円

収入

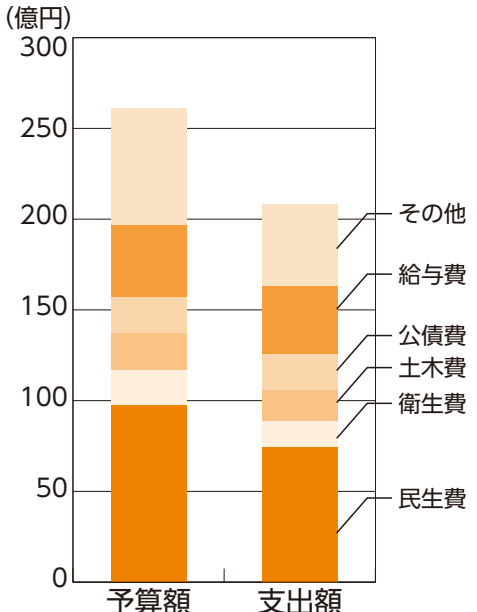
収入額 228億8,323万円
収入率 87.6%



- 市税 市民税、固定資産税、軽自動車税、入湯税など
- 地方交付税 人口や市税収入などに応じて国から交付されるお金
- 国・道支出金 特定の事業に対し国や道から交付されるお金
- 市債 市の借金

支出

支出額 208億4,949万円
執行率 79.8%



- 民生費 医療や福祉などに使うお金
- 衛生費 健康増進やごみ処理などに使うお金
- 土木費 道路や公園などの建設や維持管理に使うお金
- 公債費 借金を返済するためのお金
- 給与費 職員に給料や退職金を支払うためのお金

特別会計予算の執行状況

特別会計では、特定の目的のために納入される収入（保険料や使用料など）により、特定の事業（国民健康保険や介護保険など）を行っています。

区 分	予算額(a)	収入		支出	
		収入額(b)	収入率(b/a)	支出額(c)	執行率(c/a)
国民健康保険特別会計	48億4,764万円	39億7,385万円	82%	43億3,141万円	89%
学校給食事業特別会計	4億 622万円	1億9,723万円	49%	3億3,084万円	81%
介護保険特別会計	39億 526万円	33億5,293万円	86%	34億8,283万円	89%
カルルス温泉スキー場事業特別会計	1億2,425万円	7,416万円	60%	1億1,563万円	93%
後期高齢者医療特別会計	9億5,953万円	7億 429万円	73%	9億2,539万円	96%

※金額や数値は、4・5月の出納整理期間で変動することがあります。
※単位未満を四捨五入しているため、合計値などが一致しない箇所があります。
※予算額には前年度からの繰越額を含みます。

市有財産の状況

市は、市民サービスの提供に活用するため土地や建物を所有しているほか、特定の目的や万が一のときに使える基金（預金）などを保有しています。

区 分		金額・面積
土 地		693.9万平方メートル
建 物		26.7万平方メートル
基金など	現 金	75億1,604万円
出資金・債権など	出資金など	1億 690万円
	債 権	3億4,128万円

一時借入金の状況

市は、一時的な資金不足により、市民への給付や納入業者への支払いに支障を生じさせないよう、金融機関から資金を借ります。こうした市の一時的な借入れを一時借入金といいます。3月末時点で、一時借入金は借り入れしていません。

区 分		借入金残高
一般会計		0円
特別会計	国民健康保険特別会計	0円
	介護保険特別会計	0円
	カルルス温泉スキー場事業特別会計	0円
	合 計	0円

市債残高の状況

市は、公共施設の建設や道路の整備などに当たり、国や金融機関から資金を借入れることができ、これら市の借金を市債といいます。

区 分		残 高
一般会計		199億5,343万円
特別会計	学校給食事業特別会計	4,324万円
合 計		199億9,667万円

市民一人あたりに換算した場合

一般会計

- 収入額 53万 564円
- 支出額 48万3,410円
- 負担する市税 11万5,011円

一般会計＋特別会計

- 市債残高 46万3,637円

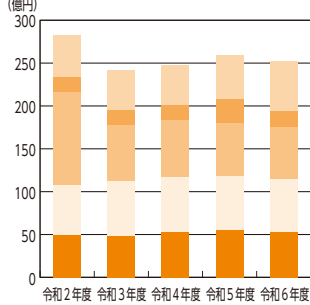
※ 3月末時点の市の人口を基に算出しています。

市の財政動向と今後の運営

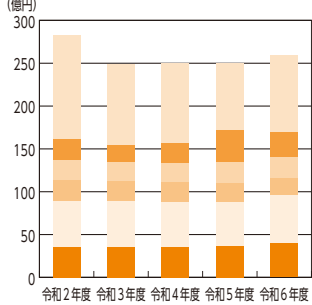
歳入歳出の動向

市税は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度以降、一時落ち込みましたが、近年は50億円を超える金額で推移しています。財政運営を行う上では、収入に占める市税の割合が高いことが望ましいとされていますが、本市では、国から交付される地方交付税の占める割合が高くなっています。支出では、公債費や人件費のほか、扶助費（生活保護費や福祉関係の給付費などの社会保障費）は必ず支払わなければならないもので、これらが支出の多くを占めている状況にあります。また、令和2年度以降は、食料品価格や燃料費、電気料金などの価格高騰に対応するための低所得世帯への給付金の支給事業を実施したことなどから、令和6年度においても引き続き『その他』の割合が高くなっています。

歳入総額と歳入構成の推移

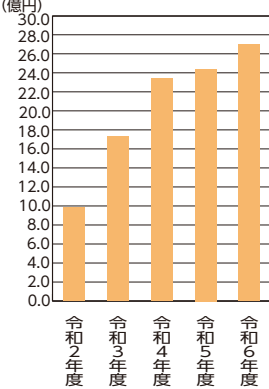


歳出総額と性質構成の推移



● 今後の運営
令和6年度は、基金残高が増加し、安定的な財政運営に必要な水準を維持しましたが、今後は市役所本庁舎建設事業など大型事業を立て続けに実施する計画となっているほか、物価高騰による燃料費・光熱水費の増加や人口減少による市税収入の減少が見込まれることから、決して楽観視できる状況ではありません。
しかし、そのような状況下にあっても、安定的な市民サービスを提供するため、国などの動向を注視しながら、市税や国・道支出金などの収入を確保するほか、事務事業評価や予算編成などを通じて、事業の必要性、効率性について不断の見直しを行うなど、健全な財政運営に努めていきます。

財源調整用基金残高の推移



● 基金の動向
市は、特定の事業に使用するため、また、財源の調整を図るために、基金（預金）を積み立てています。
このうち、万が一のときの備えとしている基金（財源調整用基金など）の3月末時点の残高は、前年度比で約2.6億円増加しました。人口減少などによる市税収入の減少や、国の計画や財政状況などにより地方交付税が減額となった際などの備えとして、財源調整用基金などを一定程度保有しておく必要があります。